

# 2025年度森と水の源流館事業づくりセミナー成果報告会概要報告

奈良教育大学 特任教授 中澤静男

開催日時：2026年2月7日（土）10時～12時30分

開催方法：対面及びオンライン

対面参加者数 18名 オンライン参加者数 19名

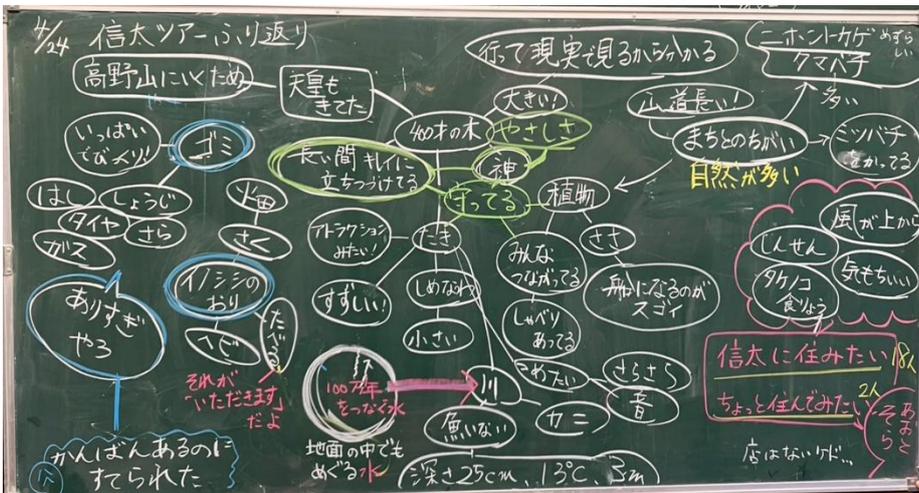
1. 和歌山県橋本市立高野口小学校 4学年総合的な学習 中谷栄作先生

☆主体的な学びは「冒険」からはじまる

地域フィールドワーク：150分かけて歩いて森と滝に出会う。

児童のここでの感動が学習を推進する。

- ・川があつてすずしくて、静かでいい気持ちになる
- ・いろんな植物や生き物たちに出会えてうれしい。 → もっと信太のことを知りたい



九重地区むら歩き  
 地域の人たちに出会う。いろいろとお話を聞く  
 「昔はみんなで祭をやった。つながりが強かった。」  
 「家はあと20件。なくなってしまふ。」

信太には何もないんじゃない。  
**自然のゆたかさや静かさ神様や人とつながるあたたかさがある！**

つながり（きずな）・感謝（自然）・歴史（祭）→信太ゴッドフェスティバルを開催しよう  
 フェスティバルで伝えたい内容の整理

- ・信太は水がいい（パックテストの結果より）
- ・水のことは「源流館」に教わろう  
 → 下流の人たちのためにダム建設にOKした
- ・小田井用水の水で自然農法をしている
- ・すべての生き物が水で生きている。水は大切だ。
- ・すもう大会、くるみもち、防災交流会  
 → 237人も参加者 自然に生まれた「ありがとう」の言葉  
 ・おたがいに「ありがとう」。自分もだれかを守れるように。

信太からも高野口からも協力者が集まる。神輿職人の宮田さんが神輿を作る。保護者も一緒にリハーサル。チラシ・ラジオ・新聞

○川つなぐ地域のかわり 祭の本当の意味は地域づくり」

当たり前とと思っていること れってなくなるかもしれない。「だれかがやらなきゃ」を自分がやったら変だった。でも、だれかのために、なら力がわいてきた。

みんなで作ることで、もっと大きい幸せができた。 → 自分・域の人たちのエルビーイングの向上

## 2. 話題共有 東洋ライス株式会社 (和歌山市)

### (1) 東洋ライス発明の歴史

- ・ ご飯の石混入による「石噛み」なくす 石抜き機の発明→無石米の販売
- ・ 社長が新婚旅行で訪れた紀淡海峡に 30 年ぶりに訪れた際、以前は青くきれいだった海が「茶色の海」に変わっていた。⇒「米のとぎ汁」が原因の一つだと知る！
- ・ 1991 年 B G 無洗米の開発  
玄米 → 精白米 → 無洗米  
約 10% のヌカの除去 約 1.5% の肌ヌカを取る  
普通米と比較し、お茶碗一杯当たり、CO<sub>2</sub> を 4.6 g 削減できる。
- ・ BG 無洗米加工で取り除かれた肌ヌカは、「米の精」という有機質肥料に加工し販売。

### (2) アップサイクルから健康づくりへ

廃棄する米ヌカから肥料の生産・販売 アップサイクル

2005 年金芽米の開発：

栄養と旨味が含まれる「亜糊粉層」と胚芽の基底部分の「金芽」を残して精米した  
お米：栄養と美味しさを両立！

→ 国の医療費削減にも貢献

## 環境問題(SDGsの目標14)と健康問題(SDGsの目標3)の同時解決

## 3. 初瀬川プロジェクト～世界中の人々がいつまでも安全な水を使い続けられるために～

奈良教育大学大学院教育学部研究科 ESD マネジメント 東晃太郎氏

研究対象・関心

①へき地・小規模校教育の研究→小規模校での実習

②ESD を意識した総合的な学習の時間における地域学習の教材開発→実習校周辺の地域資源の探究  
桜井市立初瀬小学校での課題探究実習

「地域に学ぶ、地域と学ぶ」：伝統文化や地域産業を体験的に学習する機会が多い

→地域の身近な自然に関する学習はどうか？

初瀬川プロジェクト

「小学校のすぐ南を流れる初瀬川の流域での位置づけを把握し、未来につなげるために自分たちが  
できることを「初瀬川宣言」として表現し、ポスターにまとめる。」

### (1) 身近にある初瀬川

笠置山地→初瀬ダム→初瀬川→大和川→大阪湾

川の上流部は、川の中流・下流にきれいな水を流す役わりがある

### (2) 水の旅と森林の役割

飲み水は宇陀川・室生ダム、農業用水は初瀬川・初瀬ダム

森林の役わり→緑のダム

奈良盆地→雨少ない→水不足→吉野川分水

大台ヶ原山→吉野川→紀の川→和歌山の海

源流館の尾上さんに学ぶ、森を守る＝水を守る 水と生物のつながりと川上宣言の大切さ

### (3) 宣言文の作成

身近な初瀬川を大切にしたい思い→多くの人につたえる。自分も行動する

- ・私たち初瀬は、ゴミを拾ってゴミを捨てない素敵な暮らしにします。
- ・私たち初瀬は、これから育つ子どもたちがすなおに「この川はきれい」と言える初瀬川にします。
- ・私たち初瀬は、初瀬川→大和川→大阪湾→雲→森林の順で水が流れているため、きれいな初瀬川の水を大和川や大阪湾に流します
- ・私たち初瀬は、きたない物やごみを捨てず、都会にはない、自然豊かな場所にします。そして初瀬川をもっときれいな場にします。
- ・私たち初瀬は、おいしいお魚が取れるような初瀬川にします。
- ・私たち初瀬は、魚を増やすために初瀬川のゴミを拾い、自然を守り続けます。
- ・私たち初瀬は、みんなが笑顔で初瀬川で遊べるように、ゴミを拾ってきれいな川にします。
- ・私たち初瀬は、森林や自然を潤せるようにします。
- ・私たち初瀬は、いつになっても初瀬川のことに興味を持ってもらえるように努めます。
- ・私たち初瀬は、森や山の中でポイ捨てをしないようにがんばります。

### (4) 授業の構成

①水系の異なる吉野川・紀の川、そして川上村を参考にした理由

宣言文として表現することの価値

吉野川分水の役割を学ばせたい

②教科横断型の授業展開

③森と水の源流館との連携

④小規模性を活かした協同的な学び：ペアやグループでの学び

⑤ESD との関連

空間軸で捉える「流域間のつながり」と時間軸で捉える「環境のつながり」

世代内の公正

世代間の公正

### (5) 成果と課題

○初瀬川宣言での表現を通して、児童に ESD の価値観を育むことが少しはできた。

○初瀬川がどこからどこへ流れるのか、奈良や大阪の各地域との川を通したつながりを理解した。

▼体験的な学びの不足「学校内での調査や実物を五感で体験できる活動を入れるべきであった。」

▼実習での限界：ESD は継続的に進めていくことが重要

## 4. 「食品ロスを削減しよう」福岡市立七隈小学校 5 学年総合的な学習の時間 島俊彦先生

食品ロス削減に向けた活動や携わる方々の思いや営みを教材に、食品ロス問題の原因や背景を調べたり、フードドライブを企画・運営したりし、学習成果をショート動画にまとめ、地域社会に発信する  
全 27 時間

導入：教職員の家庭から実際に発生した食品ロスの重さを測ったり、種別に分類したりする。

- ・どうして食品ロスが出るのか。(原因、背景)、・なぜ、食品ロスは問題なのか。(影響)
- ・どうしたら食品ロスを減らせるのか。(対策、取組)

調べる

- ・日本は年間約 643 万 t ロス。半分は家庭から出る。
- ・過剰除去、食べ残し、直接廃棄などが主な原因。

- ・企業、店、行政などで、減らす取組が行われている。

環境、社会、経済への影響を整理する

【環境】 温室効果ガス、仮想水のロス

【社会】 年間4兆損失、処理22、912億円

【経済】 雇用を奪う、労力のムダ

フードドライブについて調べ、自分たちで開催しよう。

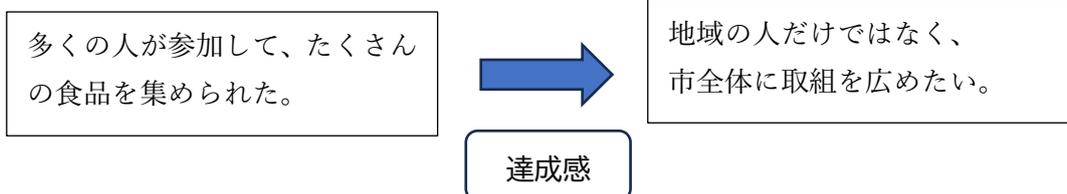
- ・フードバンク福岡の岩崎さんへのインタビュー。
- ・フードドライブの開催に、必要な内容について考える。  
多くの食品を集めたい。開催について知ってもらいたい。

【対象】 学生、主婦、高齢者、など

【発信する内容】 ロスの現状、活動の目的、など

【発信方法、場所】 チラシ など 学校、公民館など

- ・フードドライブの準備をして、開催する。



食品ロスについて追究してきた情報や、行動してきたことを整理・分析して、全体の構成を考えながら、ショート動画を作成する。

【原因】 背景】 家庭や企業、大量生産消費

【影響】 環境、社会、経済、もったいない

【対策、取組】 企業や行政だけでなく家庭でもできる

これまでの追究を通して深まった自己の生き方を見つめさせるために、これまで関わってくれた方々から、学習の評価をもらう場を設定する。

児童の変容

これまでも、食品ロスという言葉は知っていたけど、実際に何か行動をしたことは無かった。でも、食品ロスの原因や暮らしへの影響を調べて、フードドライブを開催したり、ショート動画を作ったりして、校内や地域に呼びかけた活動を通して、これからも食品ロスを減らす取組を続けたいと思った。また、今回関わった大人は本気で食品ロスを減らしたいと願って行動していた。私も、日本や世界の問題を解決したり・SDGs を実現したりできるような大人になりたい。